

平成30年度 第1回飯島町総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成30年10月9日(火)
開会 午後1時30分 閉会 午後3時24分

2 開催場所 飯島町役場 防災対策室

3 議 題

- (1) 教育関係予算について
- (2) その他

4 出席又は欠席した構成員氏名

出席構成員

町 長	下平 洋一
教 育 長	澤井 淳
同 職 務 代 理	上山 隆三
教 育 委 員	松崎 充恵
教 育 委 員	鈴木 富美

欠席構成員

教育委員 桃澤 宗夫

5 町・教育委員会事務局職員の職氏名

副 町 長	唐澤 隆
企画政策課長	堀越 康寛
健康福祉課長	中村 杏子
教 育 次 長	林 潤
こども室長	曾我 弘恵
生涯学習係長	丸山 浩隆
子育て支援調整幹	北原 千穂
生涯学習担当幹	蟹澤 京子

6 傍聴者 1名

7 議事の詳細 別紙のとおり

平成30年度 第1回飯島町総合教育会議

開 会
林教育次長
一 同
林教育次長

平成30年10月9日 午後1時30分

皆さん改めましてこんにちは。

こんにちは。

本日、平成30年度の第1回の飯島町総合教育会議ということでお集まりいただきましてありがとうございます。それでは早速でございますが、会議の方へ入っていきますが、始めに下平町長にごあいさついただきまして、その後、そのまま進行の方をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

改めましてこんにちは。

こんにちは。

今日は飯島町の総合教育会議を開催しましたところ、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

いよいよ秋本番となってまいりまして、あちらこちらで秋のイベントがさながらでございます。飯島町も、お祭りから文化祭から運動会からと、にぎやかなわけございまして、またさらには、夏できなかつた「あんどん市」の、10月27日ですね、リベンジがございまして、知事さんをお招きした中でイベントが行われるということです。また、待望の中央アルプス大橋が今度、開通しまして、そのイベントもあるということでございます。毎週のようにイベントがございまして、なかなか忙しい月かなというふうに思っております。

皆様方におかれましては、年中ですね、教育行政にご尽力いただき、また、今、文化の、真っ最中ですけども、文化振興にもお力添えをいただきましてありがとうございます。

教育環境は結構今、過渡期を迎えておりまして、高校の再編問題、再編という言い方はあれだな、高校改革の方がいいのかな、高校に対する考え方をもう一度見直そうというような時期でもございますし、また、エアコンの問題もございましてですね、教育から色々の問題点が出てきておるわけでございます。

今日は、色々の角度から皆様方の教育に関するいろいろのご意見をいただきながら、意思疎通を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしくどうぞお願い致します。大変ご苦労さまでございます。よろしくお願いいたします。

はい、それでは「総合教育会議について」ということでございます。概要を、恒例ではございますけども、事務局よりお願い致します。

林教育次長

それでは、別添の「資料3-1」と右肩に書いてあるものをご覧ください。もう何回かご説明させていただいているので、多くは説明致しませんが、その、「総合教育会議について」ということで、番号でいうと2番、飯島町総合教育会議、そこに「(1) 目的」ということで「町長と教育委員会が十分な意思疎通を図る。」っていうものでございます。それから会議につきましては町

長が招集ということで、会議は原則公開ということになっております。

構成員につきましては町長と教育委員会、必要に応じて意見聴取者の出席を要請ということでございますが、教育委員会に関係する部署ということで、本日は堀越企画政策課長さんと中村健康福祉課長さんにおいていただいておりますのでお願いを致します。

それから(4)でございます。協議・調整事項ということでございます。こちらが総合教育会議の行う事項ということでございますが、①の「教育行政大綱の策定」ということでございますが、こちらにつきましては平成28年1月に制定して、今現在やっているということで、これは次回、第2回の総合教育会議のほうで教育行政大綱の進捗状況について、またご報告をさせていただいて、その場で議論をしていただく内容ということでございますので、本日本につきましては②でございます。「教育の条件整備等、重点的に講ずべき施策」ということで、「ア 学校等の施設整備、教職員定数等の教育条件整備に関する施策等、予算編成・執行権限や条例の提案権を有する首長と教育委員会が調整する事項」ということで、これから予算編成期に入っていくということでございますので、この後でございますが、予算うんぬんについて若干説明をさせていただいた後、ご意見等をいただければということで、本日の会議の方を開かせていただきました。

後、総合教育会議について③として、こちらについては「児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置」ということで、こちらについては、あまりあってもらいたくない内容でございますが、こういったことがあった場合には、急遽でございますが会議を開催することもあるということでございますので、よろしくお願い致します。

おめくりいただいた2枚目につきましては、その設置要綱ということで、今お話させていただいた内容が要綱として載っておりますので、またご覧をいただければと思いますので、よろしくお願い致します。

総合教育会議につきましては以上でございます。

はい、ありがとうございました。

今、説明をいただきました。皆様方ご存知のことと思います。

それでは早速、協議事項に入ってもらいたいと思います。まずは、こちらで用意されたものについて協議をいただきたいと思います。「教育関係予算について」をまず事務局のほうから説明をしていただきたいと思います。

はい。それでは別添「資料4-1」をご覧ください。そちらのほうに、実施計画、これから入っていくということでございますが、中心的には次年度予算ということで、いろいろ載っているということでございます。

資料の見方としましては、事業コード、事業名ということで、それぞれの予

下平町長

林教育次長

算ごとに区切ってはございますが、一番右は事業内容ということで、そこに計上してございます、予算の種類ですとか内容といったものを一番右の事業内容のところへ書いてございます。また※印につきましては、前年からの継続事項で今後続けていきたい内容ですとか、今後検討を要するような事項。それから次年度計画、また考えているような事項ということで、そこに書いてございますので、これから一つずつ説明させていただきますが、よろしくお願い致します。

はじめに子ども室の関係でございます。

2611の児童福祉総務費でございますが、こちらにつきましては、家庭相談員、それから保育園の運営審議会の委員さんなどの各種委員の報酬という内容になってございます。

それから2640、また2641につきましては、保育園の関係の経費ということでございますが、2640につきましては保育士等の、正規職員の人件費が入っていると、2641が、そこに書いてございますように保育士等の人件費ということですが、こちら臨職、それから嘱託等の、正規以外の保育士の人件費、それから保育園のほうでかかります光熱水費、消耗品などの保育園の運営経費ということで、修繕ですとか、そういったものもこの中に含まれるという内容でございます。それで、※印の関係でございますが、まず、臨時職員の処遇改善、嘱託職員化の継続ということでございますが、ここ2年ほどやっておりますが、臨時職員さんにつきましては、ある程度の年数が経って、慣れてきているような職員さんにつきましては、嘱託職員化をしていこうということ考えておりますので、また、こちらにつきましては、経験年数等を考慮しながら、該当があれば臨時職員を挙げていきたいという内容でございます。それから栄養士の正規職員化ということでございます。こちら昨年の実施計画の段階で一度検討した部分でございますが、現在、保育園の栄養士さんにつきましては嘱託職員です。ただ、保育園のほうもここ数年アレルギーですとか、そういったものの対応等、非常に業務が複雑になってきているということがございまして、そういった場合に責任をある程度はつきりできたらということでございまして、栄養士につきましては正規職員化ができればということを考えているということでございます。それから、その次の第3子の保育料無料につきましては、継続をしていくということでございますが、その下でございます、国の保育料の無償化っていうのが話に出てきております。まだ細かい内容については、資料等が来ていないという状況でございますが、国の保育料無償化への対応ということで、予定ですと来年の10月、消費税の10%への引き上げに合わせてというようなことのようにございまして、そういったものの対応も、必要に応じて検討していかなければならない状況にあるということでござい

ます。それから一番下でございます。保育室、年長と年中の保育室につきましてエアコンを設置すると。今年度、年少の保育室につきましては9月の補正が通りましたので、そちらのほうでエアコンの設置をこれから行っていくということでございますが、年中、年長の保育室につきましては次年度、できればエアコンを設置したいということで今現在考えているという内容でございます。

続きまして2661、放課後児童健全育成事業につきましては、町で運営しております学童クラブの関係の経費でございます。指導員の先生ですとか、後は、中で使う消耗品等の費用が、そちらのほうへ計上されているということでございます。

その次の2670、から2671・・・

次長さん、全部ずうっと終わってからでいいですか？途中で切りますか？

こども室関係を一通り・・・

こども室を全部一応やって、はい。

お願いします。

はい、それでは2670、2671、2673につきましては子育て支援センターの関係でございます。

子育て支援センターにつきましては、平成29年の4月に新しくなってから現在2年目ということで、来年度3年目に入るということでございますが、この3月に利用者が1万人を突破したということで、それまで8千人台だったものが2千人ほど増えているという、良い状況かなあと思われますが、そういった状況ができております。こちらのほうにつきましては、その支援センターの person 費、それから運営に必要な光熱水費や消耗品等の経費が載せてあるということでございますが、※印の1つで、正規職員の配置ということでございますが、正規職員、今現在、支援センターは所長さん1名が正規職員と、後は臨時さん、臨職さんというような内容になっておりますが、所長さんが来年度でご定年になってしまうということでございますので、そこへ次の職員行った時にスムーズな引き継ぎができるようにということで正規職員を配置したいという意向を持っております。それから、子育て支援コーディネーター配置の継続ということで、こちらにつきましては現在、子育て支援コーディネーター1名が、支援センターのほうへ配置されております。こちらについて、続けて、相談業務等、支援センターへ来るお母さんのみならず、いろいろな相談へ乗ってあげることができてきているという状況でございますので、これを継続していきたいという内容でございます。それから、土曜日開所の継続でございますが、こちらにつきましては昨年度、利用者の皆さんからの要望がございまして、土曜日もやってもらいたいということで、現在月2回、土曜日のほう開所しているということでございます。こちらにつきましては継続してやっていくというこ

下平町長

林教育次長

下平町長

林教育次長

とでございますが、また利用者さんのご意見を伺いながら、こちらについても必要に応じて見直しをしていく部分ではないかというふうに考えております。それから、母子保健と子育て支援施策の一体化についての検討ということでございますが、こちらは検討が必要な内容というふうに考えております。以前、母子保健それから子育て支援の関係が、部署が違うというようなことがございまして、窓口どこに行ったらいいか分からないとか、そんなような声をかなりいただいたことがありまして、こういったものについては一体化するのが良いのではないかと考えていたところでございますが、先ほど、ちょっとお話ししました子育て支援のコーディネーター、配置をしたわけでございますが、どうもこの方が上手く回りはじめているのではないかとというふうに分析しているんですが、あっち行けこっち行けってというような、それまでの対応に対する利用者さん等のご意見が、今年はかなり少なくなっているという状況で、今ございますので、そういったところも見据えながら、現状で上手く進めていけるのか、それともやはり、そういった一体化、何か部署をそういうひとつにするほうがいいのか、ってというようなことについて、今後検討が必要かなあというふうに考えているということでございます。

続きまして5111、5120の教育委員会費、事務局費につきましては、委員さん方の報酬、それから事務局の人件費、それから上部団体への負担金というものが計上されておるということでございます。

それから、5121の学校教育総務費につきましては来入児、それから先生方の検診の費用ですとか、スポーツ振興センターの共済の負担金といった、各種の負担金が入っているということでございます。その中におきまして、来入学児童ランドセル贈呈の継続ということで、こちらにつきましては、何年からでしたっけ、40年の余くらい、そのくらいになりますが、ずっと継続してやってきているもので、かなり歴史のあるものということでございますので、こちらのランドセルの贈呈につきましても継続を考えているところでございます。それから、昨年度から学校の先生方のストレスチェックを始めました。昨年度ストレスチェックしたところ、ちょっと高ストレスの先生が2人だったかな、いらっしゃったようでございますが、こういったことを入れながら、今後もストレスチェックの方を継続をしていきたいという内容でございます。

5122の奨学基金費につきましては基金の積み立てでございます。

5123の子ども支援費につきましては教育相談員、それから各種委員の報酬、それからファミリーサポートセンター等の委託料ということでございますが、この中に、実は保育サポーター、今現在、各保育園、3園ございますが、ここにそれぞれ2名づつ保育サポーターに入っているということ、保育士の先生の手の回らないところすとか、子ども達の見守りすとか、

そういった部分でかなり助かっているということで、この保育サポーターについては継続をしていきたいと。それからファミリーサポートセンターでございます。今現在、社協の方へ委託して、年間で委託しているんですが、ちょっとかなり利用率が低いといったことがありまして、委託に出すだけの、要は、価値があるのかといった問題がございます。こちらにつきまして、社協から引き揚げてきて、こちらの方でやるのか、それとも違った方法をとるのか、こういったことについて今後検討をしていくという内容でございます。

5124の子ども広場の推進事業につきましては、各地区で行っていただいております子ども広場の人件費が、こちらに入っております。

それから5126、学校支援費でございますが、学校支援員の報酬、それからコミュニティスクールの関係の各学校への交付金が盛られております。この中で「夢の教室」、ここ2年、3年ほどですか、やっているんですけども、この夢の教室が子ども達にとっても大変好評であるということ、それから、今年度につきましては学校の先生対象にもお話をさせていただいているといったようなことで、かなり先生方にも好評であったということもございまして、こちらについては継続をしていきたい意向がございます。それから学校への保健師配置の継続って書いてございますが、今、飯島小学校の方に保健師1名いまして、その方が、拠点としては飯島小学校なんですけども、町内3校、学校の方を回っていただいて、いろいろな部分、保健の関係ですとか、特別支援の関係ですとかって部分でお手伝いいただいているということでございますが、この保健師につきましても、今年度、ちょっと定年ということになりまして、このままいくと保健師いなくなってしまうという状況でございます。そういったところ含めまして、学校へ保健師の方を配置を続けたいなあという意向がございますので、その部分について載せさせていただいております。

それから、5131の教員住宅管理費でございますが、教員住宅の敷地料ですとか、あとは軽微な修繕料等がこの中に含まれているということでございます。ただ教員住宅につきましても、もう、建ててからかなり年数経っております。かなりくたびれているという状況があるということと、教員住宅の利用率が下がってきているという現状がございます。そういったこと踏まえまして、新屋敷に住宅が1棟あるんですけども、その解体をそろそろ考えなければいけないかなあと、それと併せて他の教員住宅についても、どういうふうにしていくのか、ある程度方向を出す必要があるのではないかとということでございます。

それから5211、5221が飯島小学校の関係でございます。こちらにつきましては、町でお願いしております先生方等の人件費、それから学校関係の光熱水費ですとか消耗品等の運営経費、それから図書館の本ですとか全国の

学力検査、それから教材の関係の費用ですとか就学援助費っていうようなものが含まれているといった内容でございます。そこに書いてありますとおり、先ほど冒頭のあいさつで町長おっしゃっておりましたが、エアコンの設置が喫緊の課題であるということでございますので、その載せさせていただいております。

おめくりいただきまして裏へいきまして、次の、ICTの機器の整備ということでございますが、昨年、この会でやはりお話の方を一回させていただいておりますが、今年度から、一応こちらの計画では4年計画ということで、この後、七小、中学校の方も出てきますが、それぞれの学校のICTの機器の整備というものを進めていくという計画になっておりますので、こちらも載せさせていただいております。それから、電話の改修でカッコ書きで留守番電話機能というふうに入れてありますが、これは昨年度はございませんでした。これ学校の先生方の働き方改革の関係で、学校によっては既に始まっているところもあるそうですが、夜の何時以降については、もう留守番電話対応にするといったようなことをやっていくというようなことが県教委の方からも示されておりますので、こちらについて、どうようにしていくか検討が必要だということで載せさせていただいております。それから、その次が樹木管理ということで、飯島小学校につきましては東側の山の斜面ですとか、上ノ原幹線沿いの桜ですとか、そういった所の木がかなり大きくなってきているので、これも計画的に枝を切ったりとか、そういったことが必要になってきている状況ということでございます。それから施設改修ということで、飯島小学校の体育館のトイレですとか、玄関前のインターロッキング等、古くなってきている部分、壊れてきている部分については、例として挙げてありますが、施設の改修が必要になってくる部分が、かなり多くなってきているということでございます。それから一番最後につきましては、英語教育の対応ということで、今年度、協力隊員ということで、英語の方をお願いする予定でございましたが、2度ほど募集をかけたのですが、ダメであったということで、こちらについて今後、次年度以降どういう形にしていくのか、実際には平成32年から小学校3・4年生の英語は始まってくるということで、それに向けて、今現在の人数等でいいのか、それとももう一人増やした方がいいのか、また、今やっただけの支援の先生の時数を増やしてもらうような方がいいのか、そういったところを検討していく必要が出てくると、こちらにつきましては学校とも一緒になって考えていかなければならない部分ということでございます。

それから、5241、5251、七久保小学校の管理費、それから振興費でございますが、こちらについても飯島小学校とほぼ同じでございます。エアコンの設置、ICTの整備、電話改修、樹木管理、七久保小学校につきましても

グラウンド西側の、桜の木かな、かなり大きくなってる木があります。そういったものですか、後、グラウンド北の桜もかなり大きくて、老木になっているということでございますので、こういったものをどうしていくのか検討が必要ということです。それから、施設改修につきましては喫緊のものとしましてプールの濾過機のろ材の交換というようなものがあるということでございます。それから英語教育の対応ということです。

5311、5321が中学校の関係ということで、こちらについては樹木管理は、まだそれほど、小学校ほど必要になってきてはいないということでございます。その分は除いてございます。それから英語教育につきましても、中学校の方はまだということで、その分は抜いてございますが、そういった内容、エアコンの設置、ICT、それから電話改修、それから施設改修につきましては放送設備ですか受水槽の関係がちょっと喫緊かなあとということで今考えている状況でございます。

それから5312、ALTの先生の関係でございます。ちょっとこちら、私の思いつきのように書いたやつなんですけども、ALTの先生について、町の直接雇用にできないかなあというようなことを考えていると。ALTは基本的には今現在3年という期限が決められておりまして、3年経つと新しい方ということなんですけれども、新しい方呼んでくるのに、その度渡航費用がかかるということでございますので、そういったものが町の雇用で、今やっていただいている先生が非常に評判がいいということで、この人にずっと居ていただけるのであれば、そうすれば、渡航費用分ぐらいは、費用的には安くなってくるのかなあというようなことを、ちょっと考えておりますので、ちょっと載せてみました。

それから5740、5741が給食センターの関係でございます。こちらにつきましては嘱託・臨時職員の人件費、それから運営に関する光熱水費、消耗品等でございます。給食センターの建設につきましては今年度からスタートという予定でございましたが、エアコンの方が喫緊の課題ということで、方針としてはエアコンを優先に行いまして、そのエアコンの方がある程度目処がついたところで給食センターに取り掛かっていくという、こういう流れで今現在考えているところでございます。それから運営についての検討というふうでございますが、給食センターにつきましても今後、委託とか、そういったことも長期的な視野で考えると必要になってくるのかもしれないということで、こういったものについては、「検討」と書いてありますが、「研究」といった意味合いで捉えていただければというふうに思いますのでよろしくお願い致します。

以上、こども室の関係だけ、ざらっとお話ししましたが、一旦ここで切らして

下平町長

いただきます。よろしく願います。

はい、ありがとうございました。

こども室の関係、予算の項目から動きを今、ご案内させていただきました。今のお話の中で、ご質問などございましたら、どうぞ、願います。

はい、どうぞ。

上山職務代理

はい。5211、5221に関しまして、飯島小学校の関係ですね、それに
関係しましてお願いしたい件がございます。

樹木管理のところですね、今まで七久保小学校の方はかなり樹木を、校庭の
木をですね、維持管理したりされてるようですが、飯島小学校に関しては、
まだあまりされていないように感じます。それと後、校門のところ大きなモ
ミの木がございますけれども、モミの木がかなりですね、上の方もかなり、葉
っぱも枯れてきている状態になっているように見えるんですね。そういうこと
でですね、あそこにある木をですね、整備をお願いできたらと思っております。
それで、枯れてくる木があれば切り倒すこともやむを得ないかなと思いき
ゃね。それで、後、それが枯れてきて民家にですね、それが屋根に当たるとか、
そうした場合にちょっとえらいことになるんじゃないかなということが、ちょ
っと考えてきております。

それと、小学校の周りに川が流れておりますけれども、そこに、河川愛護で自
治会の方が、何カ月に一回ですね、整備されておるわけですが、あそこに
枯木が流れてくるとかですね、枯葉が流れてくるといような状態があるん
で、非常に困っているということですね。その分手間もかかっているというよ
うなことを言われておりますので、そういうことを無いようにしてほしいとい
うことです。

それと後ですね、土手の下に家が何件もあるわけなんですけれども、あそこ
の家が、実は、地形的な問題もあるかもしれませんが、木々がかなり生い茂
っているんで、日光が、特に西日が当たりづらくなっているというよ
うなことを、どうも言われているようですね。そして、ある人は自然エネルギーの太陽
光発電を考えられていたようなんですけれども、どうも、その日当たりが悪くて、
設置がどうもできないというよなことで断念、計画を断念されたというよ
うなこともあるようですので、そういうこともございましてですね、木々を、あ
そこの枝を払っていただいたりですね、そういうことをしていただいで極力日
当たりをですね、良くしていただければというよなことも言われております
ので、ぜひお願いしたいと思います。

それでですね、枝払い等の検討をですね、やっていただきますと、いずれに
しましても予算が無いとできませんものですから、できるだけですね、早急に
ご検討いただいて、そちらにも費用をまわしていただけるよなことが可能で

あればよろしいかなあとしますので、是非ご検討をまたお願いしたいと思っております。

とりあえず以上です。

下平町長

はい、ありがとうございました。

ただ今、飯島小学校の環境、周囲の環境の改善についてのご案内が、ご意見がございました。どうでしょうか。

曾我こども室長

はい、それにつきましては、ご意見をいただいておりますので、森林組合ですとか、そういった業者にも相談しながら、ご迷惑のかからないような、通知をさせていただければと考えております。

下平町長

この川に枝が流れてくるっていうのは、どこから流れてくるんです？ 校舎の枝が落ちるっていうこと？

○ 上山職務代理

校舎の枝が主にですね。結構、古くなった木がございましたり、あんまり枝も払っておられないような状態でありますので、どうしても枯木が落ちたり、その側道、道がございませけれども、そこに落ちこちたりしているというような状態が、じゃないかなと思います。

下平町長

あれ、もう古いの？ 倒れそうなの？

曾我こども室長

モミの木につきましては、少し心配が。

下平町長

ああ、そうですか。

専門家に診てもらった？

曾我こども室長

何度か診てはいただいております。

下平町長

診断は何だった、どうなの？

曾我こども室長

まだ完全には枯れていないので。「切ってくれ」というお願いをすれば、費用はかなりかかるのですが、まだ少し青いところもありますので、切る決断までは至っておりません。

○ 下平町長

なるほど。他には、いかがでしょうか？

どうぞ、あ、これ今の件？

唐澤副町長

樹木の管理は計画的にやっていると、モミの木だけでも150万くらいかかると言われています。で、一般の木の枝を切るにも20万か30万かかりますので、計画的に進めていくために、今、葉のあるうちにですね、樹木の、どの枝をどういうふうに処理していくかっていうのを調査してほしいってことで、担当課の方には伝えてありますので、計画的にですね、3年計画ですとか、そんな計画的にやっていると、一度に何百万も、樹木管理のために、他にも教育費用がいらしますので、できないということで、何年かに分けて計画的にやっていきたいというふうに考えております。

上山職務代理

ぜひ、そういうことをお願いしたいと思っておりますけど、優先順位をつけていただいて、できるだけ、影響のあるところから早めにやっていただくような形を

お願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

澤井教育長

来年、飯島小学校は「飯島学校150年」。で、同窓会を作って記念事業を計画しているところなんです。ちょうどそういう節目ですので、環境整備とすれば適切なところですし、七久保小学校もヒマラヤ杉を、大きなのを2本切ったときに、それを、多くは処分したんですけど、中庭の椅子やテーブルに加工して、腐らないようにして置いてあるということがあるので、時期的なこともありますが上手く間に合えば、いずれ処分する木であれば、それに間に合わせて切ってもらって、子ども達が150年記念、クラフトみたいなことをするのか、椅子・テーブルにするのか分かりませんが、そんなことに合わせられればいいなあというふうには思っています。

あそこにモミの木と、川を渡ってすぐ西側に柳の木が、たぶん我々が小さい頃からある。これももう、木に穴があいて向こうが透けて見えるような、なっているんで、要望とすればいっぱいあるんですけど、今もお話があって、優先順位ってこともあれば、より危険なものから手を入れていただければありがたいというふうに思います。

下平町長

はい。そういうことでございます。よろしくどうぞお願い致します。

鈴木委員

他のご意見をいただきましょう。はいどうぞ、鈴木さん。

英語については、ずいぶん軌道にのっていると伺っているのですが、産業界から要望のあるプログラミングについては、まだ手つかずだと思っています。今後、仕事の内容が大きく変わる時期にあると思うので、そういった社会に対応できるように、適した人材等をその都度、たぶん状況によっていろいろ変わってくると思うのですが、そういう方々をご検討いただいて、予算を決めていただければなあと思います。

下平町長
林教育次長

はい、それについていかがですかね。

プログラミングの教育につきましては、やはり話題に載ってきておりますが、とりあえずは、年間で小学校は何時間というレベルで、意味合い的にはプログラミング教育というよりも、プログラミング的思考を育てていくというような内容になっておりますので、そちらにつきましては、また県等からの情報を見ながら、必要なものがあればというようなことでございます。ただ、今のところまだ、要るものは無かったよね。特別、これ用意しろ、あれ用意しろというような。

(曾我こども室長、うなづく。)

澤井教育長
林教育次長

まだ教科書が、来年採択になる。

そうですね。なので、そこらへんの状況を見ながら、必要なものは要求していければというように考えております。

下平町長

はい、どうぞ。

澤井教育長

今、盛んに、プログラミング教育には先行している学校とか、先行している教育関係の会社がありまして。テレビによく出てくるのは動く機械を操作して動かしたりってというような、かなり高度な部分のものも出てきます。そういうコンテストも小中学生あるんですけど、授業ではたぶんそこまではなかなか難しいとは思いますが、上手くいけば、前進とか命令を入ると、右に曲がってとか左に曲がってってということまで進められるのかなあと。

鈴木委員さんはそういうこと非常に堪能で、いろんな研究をご自身でもされていて、我々にも研修をしていただいた経緯があるんですけど、そういう機械って1個何万円もするんです。で、1クラス、例えば20台なら、パソコンあれば20セット要るっていうと結構な投資なんです。ただ何処もまだ、手を挙げられないし、どこの市町村もまだなかなか決めかねているところもあるんですけど、後れだけはとらないように、近隣の市町村に後れをとらないようなことはしていきたいなあとと思っていますが、中学生でも技術家庭科で出てきますし、昨日テレビでAIの、テレビ番組やっていて、もうそういうことができるのが当たり前の子ども達が求められているのかなっていう感じがします。教育委員会としてもテーマの一つとして考えていかなければいけないなあとと思っています。

下平町長

はい。これから本格的に、ディープに、是非。

大変だね、子どもさん。

よろしいですかね。それじゃあ他にはいかがですかね。

澤井教育長

無ければ私から。

下平町長

はいどうぞ。

澤井教育長

これは、これからの総合教育会議のテーマにさせていただきたいものの一つなんです。少子化の対応です。どうしたら子どもが減らないようにするかっていうのはちょっと教育委員会としては重すぎるんですが、子どもが減ってきたときに、どんな工夫があるかっていうようなことをまたこういった場で意見交換をさせていただきたいと思うんですけど、さしあたってはですね、学校とか保育園の設置そのものまで、すぐに影響があるとは思えないんですけど、今だいたい60人位、小学校はだいたいどの学年も60人位で推移してくるんですが、中学校が来年2クラスになる可能性が大きいという状況があって、1クラスまた減ってしまうと。で、2年前に今の2年生が2クラスになるときは衝撃的で、先生がそれで2人も減ってしまう、1クラスしか減らないのに2人も減ってしまうっていうので、教科の先生を1人雇っていただいて、何とか急場を凌いできて、その後はずっと3が続くのかなと思っていたら、来年ちょっと思わぬ方向から2クラスということになって、また2人減るっていうことで、中学校で、もちろん教科の指導でも困っているんですけど、県費の職員が

2人減るっていうことはクラブの顧問も2人減るっていうことで、その部活をどうしていくかっていうことは非常に今悩んでいます。もう物理的に引率できない状況にきています。もし町費で雇えたとしても正担任とか正顧問はなれないものですから、県費の職員が減るっていうことは非常にダメージが大きいなっていうふうに思っています。で、未就学児なんですけど、6歳以下なんですけど、これもずっと60人位できて、4歳が75人でちょっと特別人数が多くて、このときは中学校も3クラスに復活するんですけど、中学校は今の5年生、4年生3クラスなんですけど、3年から下はずうともう2クラスで、4歳児のときだけ3クラスになる可能性があるっていう状況。で、3歳児、2歳児、1歳児なんですけど、2歳児、1歳児は50人台、で今年は未来飛行なんかの数を推計すると、半年で20人位、20人弱位だと思うんで、まあ年間40人位。年間40人っていうと、七久保の人数にもよりますけれど、飯島小も1クラスになる、今2クラスあるのが1クラスになる可能性が今の、今年の0歳児っていいですか、今年生まれる子ども達。これから後、増えたり減ったりはするでしょうけど、あんまり右肩上がりっていうのはちょっと期待できない。で、これで、今一生懸命地域と繋がってコミュニティスクールなんかでいろんな地域のイベントに子ども達が出ていたり、神社の、獅子舞の担い手だったりするんですけど、自治会にだいたい1人か2人なんですよ1学年、平均すると。で、まったくいないところもあるというので。こういった中で子ども達、自治会ごとにごう、なんていうのですかね、保護者会とか育成会を作っていけるかどうかっていうことをすごく今、懸念をしているんです。現状なんかでもし松崎さん、ちょっと気にかかることがあれば、田切の。

松崎委員

この前、東部保育園の運動会を見させていただいた時に、もう田切の子が来年からいないっていう話があったので、でいろいろ、教育長とかと話してたら、結婚する人がいないって、男の人は戻ってくるけど、女の方は、高校卒業して大学進学等すると他県へ行ってしまって、で、女性はそのままそこで就職して、でやっぱりここと違って居心地がいいと思うんですよね、一人暮らしだと。自分も向こうで育って、結婚して来ましたが、ちょっとやっぱり差があって、若い人は楽しくないのかなと思うところがあるから。色々、戻ってきてほしいっていう割に、もうちょっと、未来っていうか、女性でも仕事ができるっていう場所と、女性で戻ってきたらこれだけ、何かお得ですよみたいな感じの、男性だけ、家族対象ではなく、1人で帰ってきた女性にも、もうちょっとお得感を出せるような感じを出せればどうかかなと思っているんですよ。自分がもし女の子、娘がいるけど、ちょっと「帰ってきて」とは言いづらい。どこかで働いているのも、ちょっと少ないですし、娘がそばにいればいいけど、それは家の都合であって、その、女の子にとっては将来どうなのかなって。でも女の子

が帰ってきたら、男の人はもちろんそこで結婚とかできるから、人口はちょっと増えるかなってのはあるんですけど、住む所と、生活していく環境にもうちょっと、帰ってくる、帰ってきてほしいっていうのを女性にアピールするのも必要なかなというのがあります。結構帰ってきてほしいのは、何か男性みたいな感じがあるけど、私からの目がそういうふうに見ているのかもしれませんが、女性にもうちょっと帰ってきてほしいっていうのを、男女平等の中でおかしいんですが、女性ももうちょっとお得感を出してアピールすればいいかなと思うんですが。そういうふうに運動会を見て思いました。

お祭りとかで、伝統芸能とかは、あんまり今、興味があるとか無いとかがあるから、なかなか難しいし、追引の方、田切の方の育成会も、大人が、運営してる方の人数が多いみたいなので、参加する人が、小学生が居ずに、逆に保育園の子が参加しているっていう感じで、今までの育成会っていう意味がちょっと分からなくなってきた。やってる親自体も誰のためにやっているのかっていうのが、あんまり、できた当初の目的が、見失ってるような感じがして、どんどん行事が少なくなってきたんですよね。やってる人も、若い人がやってるようになってるので、家族も、子どもがいない人が育成会やって、何か、そういう子どもの楽しいこととか分かるのかなってところもあるので、今、運営する人選びも大変だし、参加する人も少ないのに、これからやっぱり、やっていく目的っていうのをちょっと考え直す時期なんじゃないかなって。ただ例年どおりやってますみたいな感じではもう楽しめないんじゃないかなって時期に来ているんじゃないかなと思います。

はい、どうぞ。

今の少子化っていう部分に絡めてなんですけど、以前NHKの番組で過疎地域と慶応義塾大学がタッグを組んで、地方創生のプロジェクトっていうのを、その取り組みを放送していたんです。それは、過疎地域のところに研究所を作って、そこで、これを活性化して、企業をそこに呼んで、過疎を何とかしようっていうことを幾つかやっているんですけども、その取り組みを見て、私がそれを見て、「こうしたらいいな」というのは、今すぐにはちょっと案は出ないんですけど、そういう現実的な地域づくりとそれに対する人材育成ってことを踏まえて、もう少しこう、本腰を入れてやっていけないのかなっていうふうには感じますね。教育委員会だけとか、この部署だけっていうのではなくて、この町が生き残るためにはどういうふうな方向にして、その方向に向けるにはどういうふうな人を使わなければいけないかなあっていうのを考えた上でやっていかなきゃいけないのかなっていうのを感じました。その番組を見て、全く同じことをやる必要はないと思いますし、ただ慶応のプロジェクトは3か所か4か所、いろんなところをやっているような内容だったんです。まあ、

下平町長
鈴木委員

下平町長

こういうこともあるんだと、ただ出費が多いから体力がないとできないので、そこらへんは兼ね合いだとかあると思うんですけど。町民の方々とか、今学校の改造でやっている取り組みの姿を放映していたんですけども、やっぱりもう少しこう、近い将来を見て少し動かないといけないのかなっていうのを感じました。

他に、どうですかね。

少子化対策、行政もいろいろ、今住んでおられる方々に対しての、少子化対策は、まあ何処の自治体とも負けず劣らずで、ある意味平均すれば同等な環境にできているんじゃないかなというふうに思います。ただその中で南箕輪は人口が増えていると、こういうことで南箕輪の村長さんはいつもそういう質問を受けるんだけど、どうして南箕輪だけ増えるんだと、こういうこと。そういう時に、南箕輪の村長が言ったのは「俺はこの少子化対策をやったのは13年前だ」ということの中で、今みんな状況は同じなんだけれども、昔のそういう「南箕輪は住みやすい」「子育てしやすい」「安い」とか、そういったことが今ようやく浸透してきておるんじゃないかな。こういうおっしゃりようでした。ということは、やはりそういった地域柄というのかな、子ども子育てをしやすいとか女性が住みやすいとか、子どもを産みやすいとか、そういう地域柄っていうのは急にできるものじゃなくて、段々の積み重ね、最低でも10年はかかるんだなというふうに私は捉えているんだけど、じゃあだとして10年後にこういうふうになるために今から何をしたらいいか、ということだと思うんですよね。それが一方では男女で分けられると、男に帰ってきてくれという雰囲気も、それはいいんだけど、女性へのアピールがちょっと少ないんじゃないかというご意見を松崎さんの方からいただいたわけなんだけど、じゃあそこで女性の若い人たちがこの地域に戻ってきたくなるような魅力とは何ぞやと、女性もいろいろスキルを持った方々、そういったことが発揮できるような場所がどれだけあるかということもあるだろうし、生きて暮らせる価値ってのがね、飯島町にあるかどうかという事なんだけども、そこらへんが大事。で、10年前の南箕輪が言いだした時期と、今10年経っておるんだけど飯島町、南全体が今度リニアっていう、そういった新しい時代を迎えて、品川45分、名古屋へ30分25分と、こういう近さ、都市への近さ、これが凶と出るか吉と出るか、逆に吸い取られていくという部分もあるだろうし、逆にそういったスキルがある人たちが、やっぱり都会でなくて田舎でやる、そういったスキルも発揮できるよねと、ネットの環境さえあれば十分できるよねと、こういった部分をやっぱりもっとアピールしていける、今が時代になってきているのかなと。伊那谷だけはね。だからそこらへんを上手く利用した中で、そういったキャリアウーマンも飛んで来れるような、そういった町を創っていける可能性が

あるんじゃないかなと俺は思っているんだがね。

さて、そういう環境があるにしても、どういうことを10年後目指して具体的にやっていったらいいかと。これは一番の悩みどころであるし、行政の大課題である。だから飯島町が南箕輪が最初に打ち出したような、そういった手腕をどういう形で打ち出せるかと、ということが知恵の出し合いだよな。

どうですか、行政側の方々、女性が多いですけども、どういった魅力を作ったっていったらいいかっていうのを、ちょっとこれ、大きな問題ですから意見交換したらいいかがですか。

はい、どうぞ。

では、小さなことですけども。

子どもが安心して育てられるという条件にはいろいろあると思うんですけども、困った時に相談ができるとか、後その、うちの子どもちょっと特徴があるのかなとか、特性があるのかなっていう時に、対応できるようなシステムはきちんと作っておくといいのかなっていうふうに思います。発達障害等の支援がきちっとできる環境を作って、それを切れ目なくずっとやっていけるって、今子育ての中で、虐待のようなことも結構起こっているような現実がありますので、そののところもきちんとフォローができるような体制づくりを。どうしても私のところは、危機に対する対応みたいなことが多くなってしまいますので、そんな発想になってしまうんですが、そういうところがきちんとできることによる安心感は作っていった方がいいのかなって思います。思春期の子どもたちとか、その辺のところも結構支援をする、しないはきっとあると思いますよね。で、やっぱり「郷土愛」とか「町に戻ってこよう」というものを作るためには、ここがいい、ここでいい思いをして学校時代を過ごす、例えばいじめだとか、そういうことも、あったとしても解決できるみたいな、事ができればいいんだろうなと。まあ理想論ですけど、思います。

はい、他にどうですか？

まあ担当者だからそういった教育について色々ね、やっぱり考えがなげにゃあいけないからね。これが言ったからそれやるってことじゃなくて私はどう思う私はどう思う、当然飯島町で暮らしてて、子育てもしてるだろうし、そういった経験もお有りでしょうから、そこらへんをまた、どうですか皆さん。はい。

うちの娘がちょうど思春期で、ちょっとつまずいているってのがあった時に、最近感じているのが、すぐネットで調べられるんですよね。「思春期 15歳 女子」とかでググると、何ていうんですかね、著書とか、こういうふうにしたらいいとか、沢山出るので、あんまり、今の人って自分で考えるので、外に、何て言うんですかね、子育て支援センターの乳幼児みたいに、思春期になるとあまり外に行かない、相談しないと思うんです。ですから、例えば、よ

中村健康福祉課長

下平町長

松崎委員

くいじめで、娘、息子がいじめにあったというのを知らない。子どもは結構隠すと思うんですね。だから何ていうのかな、まず、親はたぶん調べて、あんまり周りには言わないので、その頃のカウンセリングとかいうのも、調べて、調べつくして、それから行くっていうか、事態になると思うので、もうちょっと専門の人とか、もうちょっと、何ていうのか、「こうしたらいい」「こうやったらいい」というのではなく、「そうですね、そういう状況では大変ですよね」というふうに、もうちょっと「こうしたらいい」というふうにする感じではない方がいいような感じがするんですけど。子どもはやっぱり隠す、思春期の頃になると親に言いたがらないっていうのがあって、逆に「どうしたの、どうしたの」と親が言うと、余計に言わないので、そこの関係、子どもよりも親に「お母さん、こうした方がいいですよ」みたいに言える場所があると安心するんだと思います。だから、専門家よりも「私もこういうふうを経験したわ」みたいな、おぼさんの的っていうか、専門だけど偉そうに言わないような感じがいいんじゃないかなっていうのが、親としてちょっと相談しやすいかなっていう意見です。専門の方もちょっと安心なんだけど、上から目線で、ずうっと、「子どもはやっぱり一人一人違うんだよ」というのがたぶん親の本音だから、「大丈夫よ、それで見守って行って」というのが、結構親は救われるんですね。やっぱり、子どもも対応力っていうのは個々によって違うし、それによって学んでいくこともあるから、そこがちょっと、心情かなっていう、今の私の思っているところです。

下平町長

はい、そういう思いを披露していただきました。

上山職務代理

さて他には、いかがですかね。

下平町長

ちょっとよろしいですか？

上山職務代理

はい、それじゃあ少子化離れて。

下平町長

少子化の関係です。

上山職務代理

少子化の関係で、はい。

少子化っていうか、今の子どもの関係です。いいですか。先ほど5123で子ども支援費で、「ファミリーサポートセンターの検討」というところがございましたですね。今、社協さんへ委託されて利用の方が低いということで困りましたものですけど。そういうことであればですね、例えば2670に子育て支援センターの関係がございまして、まあコーディネーターが配置されているようですから、そういうところでも一括して、もしかしてできる可能性もあるんじゃないかなという感じはするんで、まあご検討等お願いしたいと思っております。

下平町長

はい、まあ子育て真っ盛りな時代から、大人になるその頃、また悩ましい時代という部分と、2つの層に分かれるのかなというふうに思うんですけど。

上山職務代理

まあそうですよね。まあそれ、なかなか区分けがね、あると思いますが難しいところもあると思いますけども。まあ一元化。

下平町長

まあ窓口はあるんで、窓口の対応としてそういうソフトランディングできるようなね、共に寄り添うということがね、大事ですというようなお話をいただいたんで、そんな感じになるような、これ人術だよ、その窓口の人のね。お医者さんみたいなもんだ。

そういった部分で今度、精神科ができたんだけど、柿田先生ってのはそういうようなことも、やっていただけるようになってきているのかね？

中村健康福祉課長

はい、柿田先生は思春期は専門ではないですが、繋げることはやりますと言っていただいています。なので、ちょっと“心の医療センター”は思春期をやる場所なんですけれども、そこにちょっと敷居が高いなっていうときには、居るので、町の中に居るのでぜひ相談に来てほしいっていうことと、後、柿田先生がこの地に住むようになったきっかけがグループミーティングをして、自分たちの、こう、薬を飲むほどではないけれども、話をしながらいろんなことを解決するような道筋をつけるっていうことをやりたいっていうことがあって、ここ駒の先生を慕って見えたということもあり、そのことのお勉強はずっと続けてらっしゃいますので、そちらの方の切り口から、そういうようなことももしかしたら作っていけるのかなっていうふうには考えています。

下平町長

はい、まあこれは後ほど、今日は中村さんにもご出席いただいているんですけども、総合事業の関係でいろいろ地域の人たちとの繋がりから、そういう人が離れていかないように、ちゃんとみんなできていう部分の、まあ地域コミュニティの完成形を目指した部分での話がまた、後ほどあるかと思しますので、まあこれはずっと地域でね、そういった人たちを助けていくというか、寄り添っていくというコミュニティを目指してという形の動きをしなければいけないというのが総合事業なんですけども、まあそういったこと。改めてそういった部分はしっかり研究していかなくちゃいけないのかなというふうに思っています。具体的なことを思わないとね。こういうところで念仏を唱えるようになってたってしょうがないことだから。

それでまた女性が帰ってくるような魅力的なという一つ今度積極的に、攻めの部分でね、また何かね、「こんなことやったらどう。」っていうことあったら、お話しいただければというふうに思いますので、お願い致します。

それじゃあこの辺は、後はいいですか子ども室、いかがですか。はい、どうぞ。

鈴木委員

ちょっと少子化とは別なんですけど、総合学習が小学校、中学校で入っているんですけども、その時間の内容をもう少し、一歩踏み込んだ内容にしてはどうかという提案なんですけど。というのは、8月半ば位からメルカリっていう

インターネットのフリーマーケットがあると思うんですけども、これを使って小学1年生の男の子が「シーグラス」という海の、浜辺にあるガラスを、まあ、ただの物を拾ってきて、少し工作をしてアクセサリーにして売ったらいくら儲かるかっていうことをやったんです。それは自由研究の一環として行ったようですが、その子が、PL、損益計算で、全体で1,000円儲かって、その内にメルカリに10%の手数料を払い、で200円の通信料も払ったら、僕は700円儲かったってことを発表したんです。で、何が重要かっていうと、ただなものをどうやって工夫したら儲けが出たか、儲けを出すためにはどういうふうにすればいいかっていう工夫をした、考えたってということなんです。で、その子の自由研究もすごいなって思ったことと、それをちょっと取り入れられないかなって思ったんです。今、小学生と中学生はちょっとやってたかどうか分からないんですけど、売り子としてはいろんな所でやってると思うんですけども、ただ売るのではなくて、例えばそれを売るためにどう工夫すればもっと儲けられるかとか、どういうふうにすれば、時間帯だとか、売る対象だとか、そういうことも少し、ちょっとずつ考えながらやっていくと、いろんなことに発展できるのかなと、それを見て思って。まったく同じことを、インターネットで販売、小学生がやるのは、まああれなんですけども、同じ事じゃなくてもいいんですけど、要は考える、そして、それを、収益っていうことを自分で作り出せるっていう作業を総合の時間に取り入れるってことはできないのかなって思って。みんなが体験できる、そしてそれを喜びに感じるっていうことができればいいかなと、ふと、その記事を見た時に思って。例えば売るのが、例えば飯島町の特産だとか、町のもの、何かとこう、繋げられれば、この町はこういうふうなものが特徴的なもので、こういうことをするとこういうふうに利益が上がってっていうことを、ちっちゃいながらも学習できるのかなって。そこに小数点だとか、パーセンテージとか入ってくると自然に覚えられるんですよ。それが学習なのかなって思って。教科書と離れた総合の時間をもう少し、まあ今も、いろんな先生がいろんな工夫をしてくださるんですけども、一步こう、ちょっと大変なんですけども、でも、衝撃的だったんですよ、1年生がPLをしたってというのが、ご両親もたぶんお手伝いをされたと思うんですけど、でもその発想ってというのが、やっぱり、1個やることによって学習にも繋がるんだな、そして将来にも繋がるんだなっていうのを思って、そこを取り入れられたらなって思いました。

下平町長
澤井教育長

はい、もちろん教育長に振りましょうね、ここは。

総合学習ってというのは様々な取り組みをやっていくということで、例えば市町村によってはもう特化してて、キャリア教育に特化して必ずそれをやるっていうところもありますが、飯島町の特徴は、特に枠を設けない、かなり子ども

たちや先生たちの発想を生かしてやってもらうっていうことで、町からのそれぞれの補助も、それぞれの学校に出していますので、今貴重なご意見いただいたので、こういったこともありますよっていうことをちょっと校長会なんかで働きかけて、まあネットを使うことが良いかどうかってかなり慎重にはなると思うんですけど。例えば町に来て営業部の方にお話を聞いたりとか、そういったことはできると思うので、そこは教育内容の一つとして検討させていただければと思います。

松崎委員
下平町長
松崎委員

いいですか？

どうぞ。

この前、中学の文化祭、清龍際が終わったんですけど、2、3年生の人が結構しっかりと総合発表をされていたんですが、1年生がまだ、3組は大正琴で発表しているんですが、2クラスほどまだちょっと決まっていなみたいな感じで、まだこれからですみたいな感じだったので、地域のその、産業をお手伝いするっていう、ちょうど酒井さんがやっている藁が国技館へ行くっていうのが出たから、ちょうど息子さんがいるので、親子で、もっと盛り上げるみたいな感じもいいなと思うし、ラジオでサーモン、サーモンがすごく各地域で盛んになって、私飯島サーモンだけかと思ったら、結構他のサーモン、地域性が出て、そういうのもあるから、せっかく飯島サーモンって良いものがあるけどあまりよく知らないから、そういう特産物を結構、大事にして、それを中学生が自分たちで、PRの仕方とか、後、育て方等を教えてもらったら、「あ、こういう仕事があるんだ」っていう起端にも繋がるんじゃないかなと親ながら思ったので、その総合を生かしながら将来に役立てて、さらに仕事の仕方を覚えられるっていうのがあるから、ちょっと町からそういう案を先生に言っていただけたらいいかなって思っています。

澤井教育長

分かりました。特産物の活用も。1年生はまだピザの先生もいるし、いろんなものがあるかもしれません。そういう時があればまた役場の各部署にご協力願って、子どもたちが活躍できるようにしたいと思います。

下平町長

まあ折に触れて社会の仕組みに触れるっていうことだよな。まあ小学校1年からね、ビジネスの才能あっても、孫正義ぐらいにしか、世界でも数人にしかならないわけであるから、それよりも社会の中でみんなだね、上手く連携を取り入れながら生きていくっていう、こういうことが、それが基本になっていて、ビジネスの商才に長けた人間をその中で育てていくっていうことがあると思います。まあ、僕は肉屋だから、若丸から鶏肉を仕入れて、焼き鳥、串に刺して、それを焼き鳥にして店頭で売らせてもらって儲けさせてもらったと。そういうことはやっぱしね、小学校の5、6年ぐらいだよな。小学校1年2年なんちゅうのはね、さも純情で本当かわいらしい僕でポーっとした人間でもいい

林教育次長

じゃないかなというふうに思うんだけど、まあ時に触れてそういった、自分で5、6千円ぐらいだったら、儲かることもやってみたと、そういった経験も必要だから。でもそればかりではないから、まあ、おっしゃるのは総合教育の中で社会の、いわゆる一環としてこういう組織、こういう事業、こういう仕事があって、みんなでこうやっているんだよってということが分かればね。まあ、そこら辺が問題だということだと思んですけど。そういうこと知らないで生きるのもね、気の毒だろうし。まあでもそういったことだんだん自然に覚えていくんじゃないかなと思うんだけど。英語も小さいうちからそんなにガンガン教える必要ないんじゃないかなと思うの、本来はね。

はい、いいですか、後は？ こども室、閉めていい？

はい、お待たせしました次いきましょう、生涯学習。

はい、それでは生涯学習係の方でございますが、ちょっとコードが少ないですけれどもお願いします。

生涯学習係につきましては5610、5611につきましては、社会教育総務事務費と、後、生涯学習費ということで、事務局の人件費ですとか社会教育指導員さんの報酬等、また各種の講座を行っておりますけれども、そういったものの運営費がここに載っているということでございます。

それから5612の男女共同参画の推進費でございますが、こちらにつきましては委員報酬が主なものということでございます。

5623につきましては公民館費ということで、4地区の公民館に関する費用ということでございます。地区の公民館長さんや主事さんの報酬、また活動、運動会ですとか文化祭とかそういったものの活動を委託料という形でお支払いをしておりますので、そういったものがそこに入っております。で、※印でございますが地区公民館の修繕ということでございますが、飯島公民館の塗装が近く必要になってくるのではないかとということが1つありますが、他の地区の公民館につきましても、細々した修繕費用出てきております。基本的に細かい修繕費用につきましてはそれぞれの地区公民館でやっていただいでいて、ものに応じてはその2分の1を町の方で補助するというところでございますが、大きな修繕につきましては町の方でやらなければならないということでございますので、そういうことにつきまして、また見ていかなければならないということでございます。

5631の図書館費につきましては図書館の協議会委員さんの報酬ですとか、図書館職員の人件費、それから運営経費でございます。で、移動図書館車の更新というふうに書いてございますが、移動図書館車につきましては、あの図書館が出来たときから、です平成3年か4年だと思っておりますが、そこから更新をしておりません。だいぶ古くなってきているということで更新について

も検討が必要になってきている時期ということでございます。

それから5641が文化館費ということでございますが、こちらにつきましては文化館の管理委託料が主になっておりますが、この中で大ホールの改修工事の方が、かなり必要な状況になってきているということでございます。今年度につきましては、つい先日ですけれども舞台のいろいろ幕ですとか緞帳ですとかあいつた吊物のワイヤーロープの交換をしておるということでございますが、今後その他の舞台機構ですとか音響設備等、不具合が出る前に改修ができればというふうに考えておるということでございます。それから、その次の「委託先の検討」とありますが、現在、まちづくりセンターいいじまというところに、外郭団体へ委託をしておるということでございますが、こちらにつきましても今後どうしていくのがいいのかというようなこと、それから併せて一番下でございますが、文化館の運営について、これから先どういう風にしていくのが一良いいのかという話でございます。文化館の方も平成4年に出来ましているいろいろな文化行事等を行ってきたり、町の方のサークルですとか、そういうところをご利用いただいているんですけども、こういったものについて利用ですとかそういったものの状況を見ると必ずしも有効に生かしていない部分があるのではないかなというようなことで、そういったところを含めて文化館、老朽化もかなりきているということですので、どういう形で使っていくのが一番良いいのかというようなことを、いよいよ検討する時期に入ってきたということでございますので、こういった部分について検討事項というふうに考えております。

それから5651、5652につきましては、文化財保護費それから埋蔵文化財調査費ということで、委員さんの報酬それから、個人の方でお家を建てたり大きな工事をするようなときに、埋蔵文化財みたいなものが出てきた場合には必要に応じて試掘等調査する必要があるということですので、そういったものについて、ここのところへ費用を盛ってあるということでございます。

それから5660、5661が歴史民俗資料館の事務費、それから資料館費ということで、これ飯島陣屋と陣嶺館の管理等にかかる費用ということでございます。陣屋の記念館改修、これ陣屋でございますが、陣屋につきましても平成6年に建設をされたということで、あちこち痛んできている部分があるということでございますのでこちらについても検討、必要に応じた改修も必要になってきている状況っていうこと。それから陣嶺館につきましては、昭和50年代です？建ったのは。

40年台。

40年台でしたっけ、40年代に建っているものということで、かなり古くなってきているということで、この陣嶺館についてどうしていくのか、まあ

唐澤副町長
林教育次長

場合によっては違うところへ引っ越すとか、そんなようなことも考えながらということになりますが、今後陣嶺館についてどうしていくかそのものについて検討が必要な時期にきているということでございます。

それから5710、5711につきましては体育の関係の総務費ということで、人件費それから上部団体等、協会への負担金がここに盛られているということでございます。

次の5721、5722、5731とこの3つでございますが、体育館等また屋外の運動場、それから海洋センターと、それぞれの施設管理費用ということでございます。こちらにつきましても、体育館の屋根や外壁やら痛んできている部分等ございますので、そういった部分について必要なところは改修をしていくことが必要となってくるということ。それからまた、体育館そのものにつきましても、どういった形で運営していくのか。飯島は体育館が非常に多いんです。各地区ごとにそれぞれ体育館を持っているっていう、他の市町村ではちょっと考えづらいような状況にあります。が、先ほどから出ております人口減という中で、これだけの施設を持つていくということについて、今後やはり同じようにどうしていくのが良いのかということを考えなければならない状況になっているということでございますので、この項にちょっと挙げさせていただきました。

以上簡単でございますが生涯学習の関係、お願い致します。

下平町長

はい、ありがとうございました。

それでは生涯学習関係でご意見をいただきたいと思います。

はい、どうぞ。

上山職務代理

公民館の関係ですけれども、最近、どちらかって飯島というような、文化的なものが少ない状況がございますけれども、最近、飯島公民館の方で映画を始められているようなことを、実際に私も1回行ってみましたんですけども、ああいう文化的なものを公民館でやられるってことは良いことじゃないかと思うんですね。映画館も1件もございませんので。だから、ああいうことで、これはどうも費用的には別にかからないというようなことをお聞きしましたので、そういう費用がかからなくて、そういう文化を取り入れられるということがあれば、もっと色々なところを活用してもらったほうが良いんじゃないかなという感じがしました。それは何か無料で借りられるというようなことをお聞きしましたものですから。ですから、そういう面でまたご検討の方をお願いしたいと思っております。

下平町長

これについていかがでしょうか、ご担当者。

蟹澤生涯学習担当幹

飯島公民館の方でやられた映画っていうのが、おそらく上伊那視聴覚ライブラリーってところが提供してくれている映画になります。やはり教育的な視点

というか、良い映画が多いので、そういうところを希望があればどんどん繋いでいって活用していただければいいなと私も思います。

下平町長

希望すれば希望しただけ、ただで来てくれるの？

蟹澤生涯学習担当幹

はい、映写機持って来てくださるそうですので。

下平町長

いろいろメニューがあって、その中から選んで、そうですか。

蟹澤生涯学習担当幹

じいさんばあさん昔見た映画もう一度見たいってことができるね、きっと。そうですね。ただ、上伊那視聴覚ライブラリーにある蔵書の中からということになりますので。

下平町長

公民館あたりでね。集まってね。そうですか、いいねえ。

上山職務代理

もう2回目だったと思います。是非他のところでもやったらと思います。

そうですよね、ええ。

○下平町長

はい、ありがとうございました。

松崎委員

他にいかがですか。はい、どうぞ。

陣嶺館なんですけども、今年は文化の日のあたりに、例年だったら無料開放みたいなのでされてたんですけど、今年はされるんですか？

丸山生涯学習係長

はい。

下平町長

はい、どうぞ。

丸山生涯学習係長

今年は11月4日、5日、6日の3日間を秋の特別開館ということにしてあります。

松崎委員

結構、お年寄りの人とかに「文化の日にやらないのかな」みたいな感じで聞かれたので。

丸山生涯学習係長

はい、毎年恒例で、文化の日には「文化財めぐり」っていうのをやっておりまして、で、その前後の1週間が国の、文化庁の方で文化財保護強調週間となっているものですから、そのあたりで例年、陣嶺館特別開館をやっているんですけど、今年はその後の3日ということで予定をしてあります。

○下平町長

文化館なんか、空いた部屋がいくつかあるんですけども、そこらへんもね、先ほどの女性のキャリアの方々にはどんなような活用ができるかってことも、場所としてはおもしろい場所になるのかなというふうに思うんだよね。じゃあ誰がどのように何をするかということが一番問題なんだけども。こういった、役場は教育関係だけじゃなくて、他の施設が、人口が減ってくることに空いてくる、それを有効活用していくということになってくると思いますので、これをどんなふうに使ったらということが、常々に考えておるところですからまたご意見あったらいただきたいと思います。

文化館の、使用するに、監査委員さんあたりはね、町民の皆さんはもう、もっともっと安く、逆にいえば、極端なことといえば夕ダで使ってもらってもいいんじゃないかと、その方がみんなが使いやすいんじゃないかと、こういうご意

見も持っておられることも確かなんですよね。そんなような感覚はどうですか。

上山職務代理
下平町長
上山職務代理

そうですね、はい。

はい、どうぞ。

文化館の場合、確か使用料が普通に使えばかかると思うんですよね。それで、かからない場合はどういうところがかからないかというところ、自治会の集会所とか、それから公民館でも、ちょっと、タダで使える所もあるようですので、そういう所をどうしても選択の第一としてしまう可能性がありますので、文化館でもそれを使ってほしいということであれば、やはり、例えば今まで1,000円かかったところを町民の場合もう少し安くやってもらえれば、可能性としてはまた、使える余地が出てくるかもしれません。後、費用対効果の点とか、後、元々結構かかっていますので、それを儲けようとするとなると。

下平町長
上山職務代理
下平町長

いや、儲けようとか儲かるところまではいかない。無理なんだよね。

それは無理だと思いますので。

お足し程度に貰っている、だとすれば使ってもらっちゃった方が良くないのという一つの考え方があるわけですよ。

上山職務代理

そうですね、確かに受益者負担ということはあるんだと思いますけど、まあ少しは払うけどっていうことでも良いか、ないしはまあ、もう町民だからいっそのことタダにしてしまえとか、そういう考え方もあるので、もしできたらそういう方向もね、検討の課題としてやってもらえたら一番使いやすいかもしれません。文化館は何といても色々な設備が整っていますので、使おうと思えばやっぱり一番良い所だろうと思うんですよね。

下平町長

まあ町民の劇団がね、ステージで練習しても良いだろうしね。音楽の人たちが楽団あそこに組んでオーケストラやっても良いだろうしね。そういった、ハードルが高いが故にそういったグループもできないんじゃないかあ気の毒なだけけれども、もしそんな方向でできればね、活性化、全体の文化の活性化に繋がるじゃないですかね。

上山職務代理

そうですね、是非。文化館の大ホールの設備を見ますと、何か他の地域、全部見たわけではないんですけど、かなり技術的には良いものを持っているんじゃないかと思えますので、かなりレベル的には高いレベルになっていると思えますので、運営上はかなりよくやっているんじゃないかと思えますね。そういう点はそう感じます。

下平町長

そう、大金をかけているから僕なんか「あるものを使えばいいじゃないか」と思うんだよね。バスにしたって文化館にしたって何にしたってね。「あるものどんどん使ってもらったほうがいいんじゃないの」というふうに思っているんだけど。そこら辺はどう、教育委員会。

丸山生涯学習係長

はい、どうぞ。

実は今朝、今日の午前中に社会教育委員会議をやってきたところなんです
が、社会教育委員さんの方にも、その提言をいただくようお願いをしてきま
した。というのは、文化館25年経った建物で今後、終わり、後20年か30
年かを見据えながらどう使っていくんだっていうことを一緒に考えていただ
いてご提言いただきたいと。というお話をしてきたところです。委員さん方も
やっぱりお感じになっていましたが、おっしゃったようにどう使うか、効率的
というが沢山の皆さんに、町民の皆さんに使っていただけるかっていうところ
を、やっぱり念頭に置いて、料金の改定も、料金の改定っていうことをまず第
一に考えて、ちょっと話を進めてみようかっていう話に、今朝なっております。

今の現状はですね、団体に登録していただいている皆さんが文化活動に使う
時には半額なんですよ。なので、そういったところでの優遇はあるんですけ
れど、例えば箕輪あたりは登録している皆さんが無料だったりするところもあ
るんだそうです。そんな中で、どうやっていくかっていうのを検討を進めてい
きたいなという考えです。

下平町長

はい、積極的に、前向きに考えているということでございます。皆さん色々
ご意見をね、いただいた中で、みんなの財産ですから、よりみんなで使えるよ
うにということが一番良いかと思えます。またご意見ください。

松崎委員

他にいかがですか。はいどうぞ。

体育館ではないんですが、与田切のテニスコートなんですけど、ナイターと
か付けていただければ、少々グラウンドが悪くても我慢するんですが、もう4
時以降とか今の時間だと暗くなってしまうし、だいたい上手い人とかはみんな
菅の台に行って、ナイター設備があるので、練習しているので、折角テニスコ
ートあるのに、上手い人はみんな菅の台で練習したみたいな感じなので、そこ
をご検討していただければ、なおかつ、オムニとか言わないけど、ちょっとコ
ート整備していただければありがたいと思うんですが。ナイターはちょっと
あった方が中学生も、ちょっと夜遅くまで練習できると思うんですが。どうで
しょうか。

下平町長
林教育次長
下平町長

はい、ご意見をいただきました。色々もらっているよね。ご意見ね。

テニスコートについては。(うなづく。)

何か、しゃべりたい? どうぞ、丸山さん。

丸山生涯学習係長

別のところからもやっぱり、テニスコートはお話いただいているところ
です。与田切のテニスコートは教育委員会の管轄じゃないっていうところがある
ものですから、直接のお答えをする立場ではないかもしれないんですけれど、
考え方としてはやっぱりスポーツ振興にどうやったら施設が役に立つかって
いうのを考えていかないといけないとは思っています。砂入り人工芝と、後も

うちちょっと環境整えてと、何面かを揃えてというご意見をいただいておりますが、沢山費用がかかるってところで、今お聞きをしてるに留まっておる状況ですね。せっかく良い指導者もいらっしゃるので、進められれば本当にね、良いかと思うんですが、そういうお声があちこちからあるということは、そのとおりなんです。

下平町長
唐澤副町長

副町長さん、ある？

はい、今、地域おこし協力隊で、スポーツ観光っていうことで採用させていただいて、段々にそういう環境を整えていくっていう研究をさせていただいています。とりあえず、その方も指導者なので、全国の有名な指導者の方をお呼びして、ソフト面で、いろんな、指導者研修会という、そんなことを進めながら、もう既に11月から企画していますけども、そんなことを進めながらハード面の、コートの方ですね、どんな方向が一番良いのかっていうのを今、研究を始めていただいているところですので。まあ1年位経つと段々方向性が見えてくるんじゃないかなと思います。ただ、お金の要ることですので、どのようにやっていくのかっていうのは、まだこれから研究の余地がありますけれども、町としては何とか活用していきたいということで考えているところでおります。

松崎委員
唐澤副町長
松崎委員

まだ何年後とか分からないんですか。国体があるから。

一応、国体を目指しながら、その選手を。

いまちょうど、いい選手たちがいるから。でもその選手たちがきっと大人になっただ頃できるような気が。ずっとやり続けている子が続けば良いんですけど。早めに。後、合宿とかも結構来ていて、利用するのとかあると思うから、ナイターとかあると、もっと合宿も。涼しいし、湿気も無いからスポーツするには良いと思うんですよね、ここの環境は。早急に、研究は早急でお願いしたいと思います。

唐澤副町長

任期は3年ですので、3年のうちに何とかしろということで伝えてありますけど。

松崎委員
下平町長

ありがとうございます。

はい、他にはいかがですか。

後もございますので、この辺で良いですか、打ち切って。

じゃあ、後「その他」へまいりたいと思います。その他はどうですか。

はい、中村さん。

中村健康福祉課長

はい、その他ということで、貴重なお時間をいただきまして、健康福祉課の方からお願いでございます。

健康福祉課の方でお配りした資料をご覧ください。「飯島町自殺総合対策計画策定について」でございます。対策の名称はもう少し柔らかいものを作っ

いるところもございますので、(仮称)という形にさせていただいてありますが、上から説明をさせていただきます。

自殺対策についてということで、日本は自殺者が多い国です。平成11年から1年に3万人超えの自殺者が続きまして、平成18年に「自殺対策基本法」を、19年には「自殺総合対策大綱」を制定しまして、国を挙げての自殺対策を行ってきました。2ページの下の方に人数の推移と国の対策の推移がございしますが、平成17年に3万2千人だったものが、平成18年ぐらいから対策を始めまして、平成23年、4年ぐらいに段々下がってきて、でも今はまだ2万人を超えているというような状況でございます。先進国の中では日本が一番多いというような状況があるということでございます。で、国は、減ってきてはいますがさらに取り組みを進めるために平成24年度に大綱の見直し、28年度は基本法の改正を行って、この時に自殺対策を市町村、都道府県と市町村でそれぞれ策定することを義務付けました。で、基本理念には「保健、医療、福祉、教育、労働その他の関連施策との有機的な連携が図られ総合的に実施されなければならない。」ということが明記されています。ということで飯島町では平成30年度中に町計画を策定致します。で、こちらの理念、5ページを見ていただきますと、自殺対策の大綱がございします。これは28年に改正をしたところが太字、下線になっているんですけども、この理念に「生きることの阻害要因」を、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すということで、その中の項目として「生きることの阻害要因」を減らして、「生きることの促進要因」を増やすことを通じて、社会全体の自殺リスクを低下させるということを謳っております。それから第3の基本的な方針です。5項目ありますが、生きることの包括的な支援、関連施策との有機的な連携強化、対応の段階というのは自殺を考えている人や、自殺をしてしまった家族も含めてということですけども、レベルごとの対策を効果的に連動させる。で、4つ目の自殺総合対策における当面の重点施策ということで、まず1番目に「地域レベルの実践的な取組への支援を強化する」、それから6番目に「精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする」、それから7番目に「社会全体の自殺リスクを低下させる」、後11番目「子ども・若者の自殺対策を更に推進する」、12番目に「勤務問題による自殺対策を更に推進する」ということになっており、数値目標としては国は27年度と比べて38年度までに30%以上減らしたいというような目標になっております。ということで今回の大綱の中にも、自殺対策の基本法の中にも、子ども、若者のキーワードが強く入ってまいりました。先ほどの教育会議の方の中にも協議調整事項の中の③で「児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置」というところに「自殺」というような言葉が入っておりますが、子どもの事はとても大事なので力を入れ

ていきたい。それから長野県については、全国で一番子どもの自殺の、人口10万対の死亡率が高い、平成24年から28年の平均でいきますと、日本で一番高かったというようなことがございまして、長野県ではそのところをととも力を入れていくというような計画を作っています。実際、長野県では15歳から34歳までの死因のトップが、ちょっとこれ資料無いんですけども、自殺になっています。15歳から29歳までの約半分、亡くなる方の半分以上が自殺というような状況になります。人口10万対の平均では長野県は4ということで、一番少ない福井県は1ですので、福井に比べて4倍もの死亡率ということになっております。

ということで子どもの対策について詳しくお話したいと思います。1番の国の対策は今お話しました「子ども・若者の自殺対策を更に推進する」ということで、今度は6ページを見ていただきますと、右下のところに11の、細かい内容が記載してございます。これは国の方の重点施策になりますが「いじめを苦しめた子どもの自殺の予防」、「学生・生徒への支援充実」、「SOSの出し方に関する教育の推進」、「子どもへの支援の充実」、「若者への支援の充実」、「若者の特性に応じた支援の充実」、「知人等への支援」ということでございます。今ちょっとお話を、前段で聞いていながら、その親たちへの支援もすごく必要なのかなと、考えたりはしているところなんですけれども、そういうところが、国の言う重点課題です。

2番目が長野県です。先ほど説明致しましたように長野県は未成年者の自殺が多いという実態から、県の計画では重点分野、年代に区切って未成年、高齢者等ありますが、未成年者を一番重要なものとして、自殺ゼロを目標にして施策の展開を行っていくということになっています。

では町は、飯島町はどうかというと、飯島町の状況、自殺者の状況の人口10万対の統計は、国、県よりも残念ながら若干多いような傾向にあります。それは3ページ、おめくりいただきますと飯島町の平成14年からの、図20は人口10万対の推移になります。で、こちら飯島町、一番でこぼこしているところになりますが、小さい町なので単年に取っていくとかなり上がり下がりがあるということで、その下の標準化死亡比というのを見ていただきますと、こちらは全国を100とした場合に、それより多いか少ないかという指数になります。平成20年から24年、これが5年ごとの、満たされるものなんですけれども、今回の25から29は今年の冬に出ますので、これが一番最新の情報になりますが、飯島町は国よりも高く、少々高い長野県よりも高いというような状況になっています。で、次に横にいきまして自殺の原因に関しましては、健康問題が一番多く、生活の問題、家庭問題というところで、だいたい8割ぐらゐが占めているのかなというような状況です。これは、何処の所もこのよう

な状況があります。それから自殺者の男女別の内訳ですけれども、男の人が4人に3人ということで、多いということです。それから自殺者の年代別なんですけれども、飯島町はこの統計をもっと前から取ってはいるんですが、若者の自殺というのは無かったということで、統計に、記録にも残っています。30代、40代、50代、60代というところがほとんどになっているところになります。こんなような状況が飯島町になります。で、また前に戻っていただいて、飯島町としては町の第5次総合計画の中の「誰もが健康で笑顔で暮せる町づくり」の「保健事業の充実」というところに自殺対策を位置付けて、取り組んでまいりました。また、自殺対策という国の方の施策を反映した形で「自殺対策」という言葉を使った対策については平成21年度から実施して、今年で10年目になります。で、一番最初、精神保健の方の流れが強かったんですけども、飯島町は母子保健や若者対策について、一番最初からどうしても大事だからということで取組を行っていて、これが2ページ3ページ4ページのところにあるんですけども、今の一番新しい自殺対策のところにもありますが、ちょっとただら書いてあるのでちょっと分かりにくいんですが、こんにちには赤ちゃんの訪問の時に母さんへのスクリーニングをしているとか、プレママの会で講演会をするとか、家族単位のこころの健康づくりをするとか、親支援プログラムといって保育園ぐらいのお母さん達を対象にした親支援の教室、後、心理カウンセラーによるカウンセリングを行っています。で、統計、21年からやっているんですけども、10代の相談につきましても総数が延べ人員が693人、21年から29年にやっている中で、10代の相談はそのうちの23件、延べ数で、実数では11人の方が相談をしています。それから、小中学校と連携して、こころの授業を実施しますということで、今、つばさの会という名前で、元々小中学校と行っている講座について、年々強化をさせていただいてありがたいんですけども、こころの授業ということで外部講師をお願いした授業を行わせていただいています。それから、医療機関と連携しているということで、飯島町は対策をやってきました。

ということで、1ページの3になります。「全町的な取組の展開について」ということで、自殺対策は安心安全、「な」ですね。（「は」を「な」に訂正）地域づくりの結果として、導かれるものと捉えて、町ぐるみの取組の展開を目指していきたいと思っています。教育部門の皆様にも計画策定・事業等におきましてご意見等いただきたく、また、一緒に取り組むことをお願い致しますということで、今日お時間を取らせていただきました。

計画はこれから3月までに、手引きというものがございますので、国の方でも方針がこのように決まっているので、これに基づきながら、で、飯島町でどのようなところを強くやっていくのが良いのだろうかということ、みんなで

意見をまとめて、優先順位をつけながらというふうに思っています。で、飯島町はずっと、子どもという括りの中の自殺は無いんですけども、リストカットであったりとか、ちょっと飛び込んだりとか、そういうことが無いわけではありません。もしかして間違えたら亡くなっていたことがあるかもしれないという状況がありますので、引き続き若者に対しての支援はきちっとやっていきたいというふうに今現場では考えているところです。ということで、ちょっと状況等説明させていただきましたが、またご意見等ありましたら言っていただければありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。具体的に「こんなことも」ってことがあれば今、読み込んでいけるといいますのでよろしくお願いいたします。

下平町長
松崎委員

今のことについて、何かございますか。

やはり、家族も子どもも悩んでいるときに、やっぱり心配ごと、一番負担かかるのは母親だと思うんですね。ですからやっぱり母親が悩んでしまうとやっぱり子どもにも余計に負担かかってしまうので、子どもも大事だけど親、特に母親のケアっていうのを大事にしてほしいなと思います。やっぱり世間的に相談できない、大きくなるほどあると思うので。小さいお子さんと子育て支援センター等で話せるお母さんはいいけど、やはり外に出れなくなったお母さんっていうのは誰かが気付いてあげないと、子どもを巻き添えで自殺になってしまうっていうのが多いので、母親を注意してあげたいなと思います。

下平町長
中村健康福祉課長
下平町長
中村健康福祉課長

はい、ありがとうございます。

ありがとうございます。

はい。

はい、私の思いではありますが、子育て支援センターが今、乳幼児が中心になっているんですけども、子育てってやっぱり、そこで終わるわけではなくて、母子保健法でも子どもは18までとなっていたりとかすることも思うと、やっぱり、選挙権は18ですけど、成人式を迎えるまでは、やっぱり守られるべき存在であろうなというふうに思いますので、支援センターの機能がもう少し年代が広くなるといいのかなというふうに思ったりはしています。

松崎委員

それは賛成です。中学だと学校で会いますが高校になると各高校が別々になるので、なかなか親同士が話すって機会が無いし、よっぽど何かが起こってから「どうなんだろう」という感じになるので、何処か町の中で、病院とかも、考えはあるけど、本人は行きたがらないかもしれないし、親だけの考えなのかなというところもあるから、それは子育て支援センターが二十歳まで相談できるような場所になればすごく助かると思います。

中村健康福祉課長
下平町長

はい。

はい。

中村健康福祉課長

健康福祉課で今引きこもりの取組を始めていて、健康福祉課と教育委員会と一緒にやりましょうという形になっていて、やっぱりどうしても一番そここのところ、中学から高校相当学年の子たちあたりのところ、で、中学まではいいんですよね、学校でしっかりやっていて、それから後のところがどうしてもなかなか大変だっているところ、何とかしなくちゃいけないなっているということで、実際、教育委員会に家庭相談員さんとかいらして相談に乗ったりとかしてくれているんですが、これがもう少し仕組み的にきちっとして、みんなが分かっているっていうふうになれるといいですねと思っていますので、そっちの方にこう、何とかと思いますのでまた予算の方を。

下平町長

予算の方って言うよりもね、行政の大きな目標なんです。政府から言われている大きな目標、2つあります。それは、地方創生。これはやっぱり経済面で活力を持たせましょうと、この地域に。で、こういう課題があって、あなた方地域ごとに自分で考えて地域の活性化を目指しなさいと、そのために予算付けましょうと、こういうことです。もう一方はですね、福祉、社会。社会福祉の関係での総合事業。これは今言ったように小さい子どもからお年寄り、高齢者まで、多感な青年期それも含めた中で、あるいは、弱者だね、精神的な弱者、肉体的な弱者、そうしたことも含めて総合的に連携が取れた助け合いでいるコミュニティを構築していきなさいよってというのが総合事業。この2つの大きな課題を抱えてやっているわけです。だから今も教育委員会から健康福祉課から産業振興課から、全て色々の方々がですね、連携し合う中で、この自殺対策っていうのも発見して対応すれば、人数が減ってきているっていう状況、これも把握していて、交通事故よりも自殺者の方が多くなっている、今は自殺者の方が多いんだよね、交通事故者よりも。そういう危機的な状況の中で数字が段々下がっている、それはやっぱり対応してきたからだ、だからあからさまに自殺対策っていうことをドンと直球で投げて、このタイトルを付けてきているだけだね。そういったことをみんな認識する中で、さて、この地域の人たちで、役場の皆さんも各課そうなんだけれども、「あ、あのおばさん今日は顔色が悪かった」とか、「話し方がちょっと引かかる」とか、そういったことがキチッと連携取れて、「誰かそれじゃあその人と話の出来る人誰かいない」ってことで話して回って、話していただいて心開いて、そういうきっかけを作っていくと。これいわゆる成熟した福祉社会のコミュニティと。これを目指しなさいということだから。自殺数が減るということは一つのバロメーターになってきている可能性がある。究極のこれは、成果だよ、これはね。その前に、今まで形式的に、助け合いましょうね、自分の命は自分で救う、地域の命は地域で救う、なんてやっていますけれども、災害起きた時には隣、私はこの人に声をかける、こういうことも段々やりながら、もっともっと深まってくると、心の部

分で、「あ、あの奥さん今日おかしかった」と、そういったこともじゃあ役場へすぐに連絡して、昔だったらそんなもの連絡しない、ノータッチ、連絡して「何とかその人に話してできる人いないの」と、こういう関係を作っていきたいと、これが総合事業。非常に難しい高度な、しかし特効薬は無く、地域の連携をとにかく考えて手を繋いでいくという事業ですから。これが2つの事業。だから予算付け予算付けって言いますが、当然大きな課題ですから。具体的な、どういうことをやったらいいかってことがなければ、ただ金を払えばいいというものじゃないからね。まあそれも教育委員の皆様にも、そういった一つの分野を、守備の範囲があると思いますので、またご意見いただければというふうに思っております。

終わりかな？

企画財政課長は何か？

堀越企画政策課長

はい、次年度以降の財政政策的なことについて色々お聞きしました。で、すぐ出来るようなものから、当面ちょっと色々な研究が必要なものまであったかと思えます。ただ、この中には、例えばエアコン等について今、国の動きが活発化してきておりますので、場合によっては31年度でなく、出来るところは30年度とか、そういった研究も教育委員会と共々というふうにやっていきたいと思えます。で、様々なご提案をいただきまして、これから3か年計画や予算査定という作業に入っていきます。そういうところで出来る限り検討や研究を考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

下平町長

はい、後よろしいですか？

どうも長い間、2時間に渡って白熱した色々のお話を聞かせていただきましてありがとうございました。こういった、私も町長になって3年で、段々にこういう教育とは何ぞやと、どういう問題があるかっていう、本当に段々に分かってくることで最初からそんな分からないですよ。教育委員のみなさんももう何年務められて居られるかベテランも居られるし、また、任期を迎えている方も居られると思えますけれども、しかしこれは年を重ねていくことによってやっぱり、いぶし銀のような、そういった発想とか考えとか、そういったものが地域に生かされるかと思えますので、是非、重要なお仕事ではあって、お時間もかかりますけれども、是非、飯島町の教育行政、あるいは文化、福祉の向上のためにご尽力いただければありがたいと思えます。改めて、この場でまたご活躍をお願い申しあげまして、本日を終了させていただきたいと思えます。ありがとうございました。

一同

ありがとうございました。

午後3時24分

以上の議事録は、教育委員会教育次長 林 潤 の記載したものであるが、その内容の相違ないことを証するため、ここに署名する。

飯 島 町 長

下平洋一

飯島町教育長

澤井 淳

同 職 務 代 理

上山隆三

飯島町教育委員

松崎 充恵

飯島町教育委員

鈴木富美

飯島町教育委員